

# 校内研修計画

岩手小学校

## 1 学校課題

本校の児童は、少人数であり、保育園から小学校卒業までほとんど変動のない人間関係の中で生活しているため、複数の意見の表出の機会や互いに意見を交流する場面が少ない。そのため、「誰が何が得意」といった固定概念が児童の中に生まれがちであり、自分自身の力を今以上に伸ばそうとする意欲につながらずに現状に満足してしまいがちな面もある。一方、地域の伝統を基にした「岩手小学校太鼓」や縦割り活動などの取組により、異年齢間の交流や協力、教え合い、自分を発揮する場などが保証されている。こうした学校全体の取組から、学級力にかわる「学校力」として、児童の力の育成に効果的に働いている面もある。

具体的な教育の場面においては、教師の個別指導が行き届く点がメリットであり、学力定着のための指導を充実させることができる。しかし、児童の自主性、創造性を育てるための「自らの活動を待つ」前に指導してしまいがちである。それが、児童の「深い学び」や「創造力」を育てる機会をなくしてしまうこともある。その結果、必要以上に児童が教師を頼ったり、出番をあきらめたり、自ら思考し、意見を交流したり、創造的に活動できなかつたりする傾向が見られる。

学力の確実な習得のため、少人数を生かした個別指導を行うとともに、「主体的・対話的で深い学び」につなげるために未来を担う児童に望まれる「情報の活用能力」「創造力」の向上をはかることが課題である。

## 2 研究主題

自ら考えをもち、考えを広げ、創造的に解決させる指導の工夫  
～プログラミング的思考を取り入れた授業づくりをとおして～

## 3 主題設定の理由

本校では、めざす児童の姿として、教育目標である「自ら学び心身共に健康な子どもの育成」を具現化するために①自ら進んで学習する子ども②自分の考えをもち表現できる子ども③相手の立場や気持ちを思いやれる子ども④ねばり強く努力する子どもを挙げている。また、確かな学力と自立する力の育成として「主体的・対話的で深い学び」を実現するための授業改善、授業の質的向上が求められている。

新学習指導要領は、「超高齢化、少子化」を見据えた内容となっており、これは現在及び未来の日本が抱える大きな問題でもある。現在の小学校における教育から未来を見据えた教育を展開していく必要があるということでもある。

21世紀を生きる子供たちに必要な力は、「知識」「スキル」「人間性」であり、これらは「個別の知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」と表される。また、今後は、情報をやりとりする「言語能力」とともに情報を収集・整理・比較・表現・伝達するための「情報活用能力」が、学習の基盤となる資質・能力として教科横断的に習得される必要がある。「情報活用能力」は、「世の中の様々な事象を情報とその結び付きとして捉えて把握し、情報及び情報技術を適切かつ効果的に活用して、問題を発見・解決したり、自分の考えを形成したりしていくために必要な資質・能力」であり、「プログラミング的思考や、情報モラル、情報セキュリティ、統計等に関する資質・能力も含まれる」ものである。これらは互いに矛盾するものではなく、相補うものとも言える。知識という情報を共有し、考えを交流、議論させ、自らの学びをより深くしていく場を学校の教育現場において多く設定していくとともに、基本となる知識の習得とその知識を組み合わせることで創造的に問題を解決する力の育成が求められているのである。以上のことから、学力向上の基礎となる確実な知識・技能の習得を行い、得た知識・技能を活用して、深く多角的・多面的に考え、課題を解決することが課題となる。

今年度は、昨年度の成果と課題を生かし、児童がより論理的に思考し、互いの考えを交流させながら創造的に問題解決していくことができるよう、プログラミング的思考を効果的に取り入れた授業づくりを中心に研究を進めていきたい。

## 4 研究の具体的内容と方法

### (1) 具体的内容

#### ① 基本的な知識・技能の習得をはかる指導の工夫

- a) 知識を確実に習得させる手立ての工夫
- b) 複数の場面に汎化できる学習技能の指導
- ② 論理的思考力を伸ばす指導の工夫
  - a) プログラミング的思考を意識した授業
  - b) 知識・技能を活用する場面を仕組む授業
  - c) 教育課程への位置付け
- ③ 創造的な問題解決力を養う指導の工夫
  - a) 得た知識・技能をつないで使おうとする場面の工夫
  - b) 意見を交流させ、新たな解決方法を見出させる指導の工夫
- ④ 家庭との連携
  - a) 家庭学習への取り組み  
自主学習の質の向上

(2) 研究の方法

研究の基本は授業である。授業を行い、児童の事実を捉え、研究とする。したがって研究授業を行い、検討する。また、校内における共通財産として研修の場を設ける。

- ① 全体研究会
- ② 研究授業
- ③ 校内研修
- ④ 実践授業

(3) 年間校内研修計画

研究主任 三枝 清美

月	日	曜	回	主な内容 (予定)	会のもち方
4	2	火		研究の方向について	全体
	24	水	1	校内研究全体計画について/授業者決定	全体
5	8	水		教育研究① 教協春季教研	
	15	水	2	研修① /低高ブロック研究 (家庭学習について)	全体・ブロック
	22	水		教育研究②	
	29	水	3	研修② /個人研究	全体・個人
6	5	水	4	研修③	全体
	12	水		教育研究③	
	19	水	5	研修④ /個人研究	全体・個人
7	3	水	6	研修⑤ /低高ブロック研究	全体・ブロック
	10	水	7	研修⑥ /個人研究	全体・個人
8	7	月		教育講演会・北中ブロック交流①	
	9	水		教育研究④	
	21	水	8	研修⑦	全体
	28	水		教育研究⑤ 統一授業研	
9	4	水	9	教育課程還流報告/全国学力学習状況調査結果分析	個人
	11	水	10	個人研究	個人
	18	水		教育研究⑥ 秋季教育研究会	
10	2	水	11	予) 指導案検討①	全体
	16	水	12	予) 指導案検討②	全体
	23	水	13	予) 研究授業	全体
11	6	水		北中ブロック交流②	全体
	13	水	14	個人研究	個人
	27	水		教育研究⑦	
12	4	水	15	研究紀要について /低高ブロック	全体・ブロック
1	15	水		教育研究⑧	
	29	水	16	研究のまとめ ※新入児保護者説明会	全体
2	5	水		教育研究⑨ 統一授業研	
	12	水		教育研究⑩ 冬季教研	
	19	水		北中ブロック交流③	
	26	水	17	紀要読み合わせ (校正)	全体
3	4	水	18	紀要作成 (拾い込み) ※CDの場合はなし	全体

